

京都大学大学院 教育学研究科紀要

第71号

E.W.アイズナーによる質的研究論の検討

－ Arts Based Researchへの展開過程に着目して－

身体活動の炎症反応機構を介した精神的健康への影響

－ 精神衛生上の問題に対する進化・適応的視点からのアプローチ－

B. ギャリーンによる「合流言語教育」の理論と実践

－ 「個人化技法」の変遷に着目して－

池田小菊による学習指導の理論と実践

－ 木下竹次との異同に注目して－

教育学による「意味」の「正当化」

－ E. レヴィナスの思想の教育学的研究のために－

重松鷹泰による「授業分析」論の起源

－ 戦前の研究活動から戦後の教育改革への展開に注目して－

ジャパニーズ・イングリッシュにおける「日本らしさ」

－ 浜口恵俊の「間人主義」を応用して－

通信制大学に対面する機会が必要か

－ メディア授業制度化をめぐる政策と通信制大学の取組からの一考察－

なぜ当事者視点で高校と大学の関係性を描くことが必要なのか？

英語スピーキングパフォーマンスに対するポジティブなフィードバックが

認知プロセスに与える影響 － 行動及び脳賦活のデータの観点から－

夢が持つ機能についてのスコーピングレビュー

－ 感情面に着目して－

犯罪被害者支援の歴史と展望

－ 警察による心理的支援を中心とした検討－

交互色彩分割法研究の概観

－ その活用実態と技法の特徴－

京都大学大学院 教育学研究科紀要 第71号

目 次

論 文：

E.W. アイズナーによる質的研究論の検討	岡村 亮佑	1
－ Arts Based Research への展開過程に着目して－		
身体活動の炎症反応機構を介した精神的健康への影響	梶原 隆真	15
－精神衛生上の問題に対する進化・適応的視点からのアプローチ－		
B. ギャリーンによる「合流言語教育」の理論と実践	田野 茜	29
－「個人化技法」の変遷に着目して－		
池田小菊による学習指導の理論と実践	肖 瑤	43
－木下竹次との異同に注目して－		
教育学による「意味」の「正当化」	加藤 里奈	57
－ E. レヴィナスの思想の教育学的研究のために－		
重松鷹泰による「授業分析」論の起源	サチニ ウダワッタ	71
－戦前の研究活動から戦後の教育改革への展開に注目して－		
ジャパニーズ・イングリッシュにおける「日本らしさ」	呉 尚峻	85
－浜口恵俊の「間人主義」を応用して－		
通信制大学に直面する機会が必要か	梅川 紗綾	99
－メディア授業制度化をめぐる政策と通信制大学の取組からの一考察－		
なぜ当事者視点で高校と大学の関係性を描くことが必要なのか？	岡田 航平	113
英語スピーキングパフォーマンスに対する	PATERSON Rebecca Lee	127
ポジティブなフィードバックが認知プロセスに与える影響		
－行動及び脳賦活のデータの観点から－		
夢が持つ機能についてのスコーピングレビュー	吉岡 佑衣	141
－感情面に着目して－		
犯罪被害者支援の歴史と展望	保崎恵理子	155
－警察による心理的支援を中心とした検討－		
交互色彩分割法研究の概観	杉山佳菜絵	169
－その活用実態と技法の特徴－		
現代の対人恐怖に関する一考察	近藤 啓太	183
－「おびえ」の心理に着目して－		
性的マイノリティ (LGB+) に関する	上田 裕也	197
性的アイデンティティ発達研究の概観		
－段階モデルからマイルストーン研究への潮流変化に着目して－		

小学校支援学級担当教員とスクールカウンセラーによる	久保蘭悦子	211
学校臨床コンサルテーションの実践について		
心理臨床家の内的負担感へのアプローチ	古澤 文子	225
－対人援助職者の観点からその専門性へ－		
青年期における身近な他者からのサポートに関する研究の再検討	村上 千理	239
米『ブルーブック』から日本の放送が得たもの	立岩陽一郎	253
－戦後日本の放送は何を得て何を捨てたのか－		
明治「非・青年」としての浪人論	戸松 幸一	267
－雑誌『日本人』、『日本及日本人』を中心に－		
韓国における大学入学者選抜をめぐる論争に関する考察	西山喜満主	281
－教育の「正常化」言説を手がかりとして－		
台湾の大学入学者選抜における特別措置に	南部広孝・村田裕佳・廖 于晴	295
関する考察		
女性同士の親密な関係とメディアを巡る社会学研究の系譜と展望	上村 太郎	321
教育政策の実施過程における	開沼太郎・山迫花寧・岡澤 節	335
「回避・復元傾向」を生み出す教員の意識		
－教育の情報化とカリキュラム・マネジメントに関する文献調査をもとに－		
インド・カルナータカ州の学校教育における言語に関する戦略	小島 美月	361
－英語と州公用語の扱い方に着目して－		
世界諸国の高等職業教育の展開に関する考察	張 潔麗	375
－学士課程段階の高等職業教育の提供状況の整理を試みて－		

資 料：

研究費	399
プロジェクト活動	
教育実践コラボレーション・センター	403
グローバル教育展開オフィス	409
博士論文	413
修士論文	415
卒業論文	417
執筆者一覧	420
京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程	421

An Examination of the Qualitative Research Theory of E.W. Eisner: Focusing on the Development Process of Arts-Based Research	OKAMURA Ryosuke	1
Effects of Physical Activity on Mental Health via Inflammatory Response Mechanisms: Approach to Mental Health Problems from an Evolutionary and Adaptive Perspective	KAJIWARA Takamasa	15
Theory and Practice of “Confluent Teaching of Foreign Language” by B. Galyean: How “Personal Strategies” Changed	TANO Akane	29
Theory and Practice of Teacher’s Leadership by Kogiku Ikeda: Focus on Differences with Takeji Kinoshita	XIAO Yao	43
“Justification” of “Sense” in Pedagogy: To the Pedagogical Study of E. Levinas’s Thought	KATO Rina	57
The Origins of Shigematsu Takayasu’s Theory of “Lesson Analysis”: Focusing on the Development from Pre-War Research Activities to Post-War Educational Reforms	UDAWATTA Sachini	71
The Japaneseness of Japanese English: Considering Hamaguchi Etsun’s Contextualism	WU Shangjun	85
Is Face-to-Face Interaction Necessary in Correspondence Universities? : An Examination of Policies Surrounding the Institutionalization of Media-Based Classes and the Efforts of Correspondence Universities	UMEKAWA Saya	99
Necessity of Describing Relations between High School and University from the Perspective of Students	OKADA Kohei	113
The Effect of Positive Feedback about English Speaking on Cognitive Processes: Insights from Behavioural and Brain Activity Data	PATERSON Rebecca Lee	127
Scoping Review on the Functions of Dreams: Focusing on Emotional Aspects	YOSHIOKA Yui	141
History and Prospects of Support for Victims of Crime: A Study Focusing on Psychological Support by the Police	HOZAKI Eriko	155
A Review of Studies on the Reciprocal Division-and-Coloring Method: Its Applications and Characteristics	SUGIYAMA Kanae	169

A Study on Contemporary Anthropophobia: Focusing on the Psychology of “Fright”	KONDO Keita	183
An Overview of Sexual Identity Developments Research among Lesbian, Gay, and Bisexual+: Focusing on the Shift from Stage Models to Milestone Studies	UEDA Yuya	197
Practice of School Clinical Consultation by Elementary School Support Class Teachers and School Counselors	KUBOZONO Etsuko	211
An Approach to the Psychological Burden of Clinical Psychologists: From the Perspective of Human Service Providers, to the Experience of Clinical Psychologists	FURUSAWA Fumiko	225
A Review of Studies on Support from Close People During Adolescence	MURAKAMI Chisato	239
What Japanese Broadcasting Learned from the FCC “Blue Book”: What Did Postwar Japanese Broadcasting Gain and What Did it Not?	TATEIWA Yoichiro	253
The Theory of Ronin as 'Non-Youth' in the Meiji Era: Focusing on the Magazines “Nipponjin” and “Nippon oyobi Nipponjin”	TOMATSU Koichi	267
Controversies Surrounding University Admission in South Korea: Focusing on the Discourse of the “Normalization” of Education	NISHIYAMA Kimikazu	281
A Study of Preferential University Admission Policy in Taiwan	NANBU Hirotaka, MURATA Yuuka, LIAO Yuching	295
A Historical Review of Sociological Research on Media Representations of Intimate Relationships between Women	KAMIMURA Taro	321
Teachers’ Consciousness that Creates “Avoidance and Restoration Tendencies” in the Implementation Process of Educational Policies: Based on a Literature Review of Educational Informatization and Curriculum Management	KAINUMA Taro, YAMASAKO Sumire, OKAZAWA Setsu	335
Strategy for Language Use in School Education in Karnataka, India: Focusing on the Use of English and the State Official Language	KOJIMA Mizuki	361
A Study of the Actual State of Development of Higher Vocational Education in the World: an Attempt to Organise the Provision of Higher Vocational Education at the Bachelor’s Level	ZHANG Jieli	375

研 究 費

研 究 費

年月日	研 究 課 題 名	氏 名
2024.4.1	基盤研究 (S) 個別的育児支援手法の創出を導く養育者一乳児の動態とその多様性創発原理の解明	明和 政子
2024.4.1	基盤研究 (B) 実行機能を「実行」する知識の獲得過程と運用機構の解明	齊藤 智
2024.4.1	基盤研究 (B) 共感覚比喩と共感覚現象に共通する認知メカニズム：大規模 web 実験による検討	楠見 孝
2024.4.1	基盤研究 (B) コンピテンシーの形成・評価の検討—統合性・分野固有性・エージェンシーに着目して—	松下 佳代
2024.4.1	基盤研究 (B) 自己超越的感情の生起メカニズムに関する心理・生物・情報学的研究	野村 理朗
2024.4.1	基盤研究 (B) 若年者の犯罪・非行からの離脱プロセス：デジスタンスを促す／妨げる社会的要因の探求	岡邊 健
2024.4.1	基盤研究 (B) 日本植民地統治下台湾における教育の「植民地性」再考—共時的・通時的比較分析	駒込 武
2024.4.1	基盤研究 (B) 大学教授職の役割分化の実態と論点の整理：日豪の教育担当教員を事例に	佐藤 万知
2024.4.1	基盤研究 (B) SNS カウンセリング相談員養成プログラムの開発	畑中 千紘
2024.4.1	基盤研究 (B) 領域横断的な万国博覧会史研究を通じた新しい戦後史叙述の可能性	佐野真由子
2024.4.1	基盤研究 (B) 子どもの多様なニーズに対応するパフォーマンス評価を活かしたカリキュラム改善	西岡加名恵
2024.4.1	基盤研究 (C) 明治期におけるカナダ・メソジスト教会の教育事業—公教育と学校制度の展開への対応—	田中 智子
2024.4.1	基盤研究 (C) コンセプトマップによる学習成果可視化のための評価指標の開発とウェブシステムの構築	田口 真奈
2024.4.1	基盤研究 (C) 明治期中学校形成史の再検討—「辺境」の視点・鳥瞰的視角から—	田中 智子
2024.4.1	基盤研究 (C) 通学制大学と通信制大学の比較を通じた高等教育の役割とその教育手段の明確化	田口 真奈
2024.4.1	基盤研究 (C) 近世医療情報の教育メディア史—「不安」に挑む「施印」	ファンステーンパール ニールス

2024.4.1	基盤研究 (C) 自閉スペクトラム特性の強みを探る	明地 洋典
2024.4.1	基盤研究 (C) 都市新中間層家庭の人間形成と教育戦略：大正・昭和初期の児童文学の分析を中心に	竹内 里欧
2024.4.1	基盤研究 (C) 人間本性と理性の陶冶についての教育哲学研究：実践知の特性の究明と涵養に向けて	三澤紘一郎
2024.4.1	基盤研究 (C) 日本型学校教育の構造変容に対応する資質・能力ベースのカリキュラムと授業の再構築	石井 英真
2024.4.1	基盤研究 (C) 教員の思考様式等を考慮した教育政策の立案・実施に関する研究	服部 憲児
2024.4.1	基盤研究 (C) STEAM 教育を軸としたカリキュラム・マネジメントの推進にむけた教員の力量開発	開沼 太郎
2024.4.1	基盤研究 (C) 社会情動的コンピテンシーの測定と涵養：特性とスキルの弁別のための教育心理学的研究	高橋 雄介
2024.4.1	基盤研究 (C) 公立図書館集会室の理念と現実の確執に関する歴史と現状の分析	川崎 良孝
2024.4.1	基盤研究 (C) 人を全体的にとらえるとは：アメリカ哲学の文脈的全体性をめぐる国際的教育研究	齋藤 直子
2024.4.1	基盤研究 (C) 教育的関係における信頼の理論と実践に関する研究	広瀬 悠三
2024.4.1	基盤研究 (C) 本邦におけるスーパーヴィジョンの成り立ち—精神分析史からのアプローチ—	西 見奈子
2024.4.1	挑戦的研究 (萌芽) 「いき」の認知科学	野村 理朗
2024.6.28	挑戦的研究 (萌芽) 教育実践の質的研究を通じた日本型大学教育の探求	佐藤 万知
2024.4.1	挑戦的研究 (開拓) カリキュラム空間：生徒の自己調整思考能力を高める革新的なカリキュラム編成	Manalo Emmanuel
2024.4.1	若手研究 里親支援についての日伊比較研究：〈脱施設化〉の社会的背景の解明に向けて	藤間 公太
2024.4.1	若手研究 オランダのオルタナティブスクールにおける教師の指導性	奥村 好美
2024.4.1	若手研究 意味的類似性効果に基づく意味的保持メカニズムの解明	石黒 翔
2024.4.1	若手研究 童話『ピノキオ』をめぐる差別図書問題と図書館の対応に関する総合的研究	福井 佑介

研 究 費

2024.4.1	若手研究 学士課程段階の高等職業教育の社会的受容状況に関する実証的研究—中国を事例にして—	張 潔麗
2024.4.1	若手研究 知識人と労働者による教育空間の形成と展開 —京都労働学校の戦後史—	奥村 旅人
2024.4.1	若手研究 自閉スペクトラム症における社会的認知の促進：ライブ呈示による再検討	菊池由葵子
2024.4.1	若手研究 Higher education and migrant flows: Japanese universities as migration intermediaries	BROTHERHOOD THOMAS
2024.4.1	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B））（令和3（2021）以降採択分） いかにして国際社会で使える英語を身につけるか：スピーキング力と意欲の向上を端緒に	Manalo Emmanuel
2024.4.1	国際共同研究加速基金（海外連携研究） 心の働きを制御する心の働きを探索国際共同研究：社会構成主義的心理科学アプローチ	齊藤 智
2024.4.1	国際共同研究加速基金（国際共同研究強化（B）） 認知リソース概念の誤謬に挑む国際共同研究	齊藤 智
2024.7.31	研究活動スタート支援 中年期独身者の交際・パートナー関係に関する家族社会学的研究：混合研究法を用いて	栗村亜寿香
2024.7.31	研究活動スタート支援 自然言語処理を用いた心理学的構成概念の通時的変遷の検討	西山 慧
2024.7.31	研究活動スタート支援 「畏敬の念」を生起する芸術鑑賞プロセスの解明	澤田 和輝
2024.4.1	特別研究員奨励費 新旧ジェンダー観の対立構造に関する文化社会学的研究—近現代歌壇を事例として—	松田 康介
2024.4.1	特別研究員奨励費 少年非行とセルフコントロールの関連性における多文化比較研究	齋藤 堯仁
2024.4.1	特別研究員奨励費 「実践・批評モデルの授業研究」を基盤としたカリキュラム改善プロセスの解明	岡村 亮佑
2024.4.1	特別研究員奨励費 就学期前後における自己制御と腸内細菌叢との発達の関連	藤原 秀朗
2024.4.1	特別研究員奨励費 大学入学者選抜における多面的・総合的評価に向けた学内体制のあり方に関する検討	大野真理子
2024.4.1	特別研究員奨励費 認知トレーニングの「負の効果」から認知機能の可塑性を捉える	NI NAN
2024.4.1	特別研究員奨励費 近代日本の高等教育領域における看護学の展開に係る歴史的研究	木野 涼介
2024.4.1	特別研究員奨励費 身体活動による不安低減効果の個人差に関する実証的検討—内受容感覚に着目して	梶原 隆真

2024.4.23	特別研究員奨励費 アタッチメントの多様性創発に関する生物学的基盤の解明—行動・生理指標による検証	南 俊行
2024.4.23	特別研究員奨励費 日本人英語教師の批判的思考力育成に関する認識の研究：指導法開発と教員研修への応用	阿部由香梨
2024.4.23	特別研究員奨励費 スピリチュアリティの生起過程に係る心理・神経科学的検討—自己超越的感情に着目して	林 亮親
2024.4.23	特別研究員奨励費 人間中心アプローチに基づく言語教育カリキュラムの構築	田野 茜
2024.4.23	特別研究員奨励費 「徒弟的教授」論の構築と実装	糸川 薫樹
2024.4.23	特別研究員奨励費 科学的探究学習の適応的支援システムの開発と活用：科学的思考の転移と学校への適用	福田 麻莉

教育実践コラボレーション・センター

「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究を目指して」

〈活動概要〉

教育学研究科では平成19年度に特別教育研究経費（教育改革）による「子どもの生命性と有能性を育てる教育・研究推進事業」のプロジェクトが立ち上げられ、教育実践コラボレーション・センターとして、さまざまな活動を行ってきた。当センターは、教育学研究科内外の異分野連携・融合を促進し、さまざまな教育課題に対する組織的な対応をコーディネートすることを目的として、各種の活動に取り組んでいる。その際、子どもをめぐる教育問題の中心を「生命性を深めること」（心の問題）と「有能性を高めること」（学力問題）という2つの軸として取り出し、そのトータルな育成の方法を探っている。2024年度現在、センター委員としては、教育哲学、教育方法学、高等教育学、認知心理学、臨床心理学、教育社会学、図書館情報学、生涯教育学、教育行政学、比較教育学を専門とする教員が名を連ねており、学際的な連携を取りつつ教育へのアプローチを探究することが可能となっている。

継続的に開催してきた「知的コラボの会」は、2024年度末までに61回を数えることとなる。新しく研究科に着任された先生方に話題提供していただいているほか、外部の講師を招いた講演会なども開催しており、毎回、知的刺激に満ちた会となっている。2025年度は、校内他部局の教員との連携をさらに活性化することを目指したい。

また、2024年度は北京師範大学との学術交流会を京都大学において対面にて行うことができた。日中の大学院生が参加し、「Education Reform and Innovation in the New Era」のテーマで活発な議論が行われた。

E.FORUM全国スクールリーダー育成研修については、毎年、8月と3月に開催している。多くの参加者が繰り返し参加してくださっており、会員間のネットワーク構築にも資する取り組みとなっている。

さらに、教育実践コラボレーション・センターE.FORUMでは、現在、大きなプロジェクト2つに取り組んでいる。

まず、内閣府によるSIP（戦略的イノベーション創造プログラム）の課題の「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」において、研究開発テーマ「真正で探究的な学びを実現する教育コンテンツと評価手法の開発」研究開発責任者：松下佳代）に採択された（2023年度～2027年度）。本プロジェクトでは、フィジカル空間とサイバー空間の労働・活動・学習・生活空間を往還しながら、どこで生まれ育っても、社会と自分の人生を創っていける手ごたえを感じつつ、自分らしい生き方（well-being）を追求していける社会の実現をめざし、①総合的な学習（探究）の時間等におけるデジタル・ポートフォリオを主軸とした評価システムの開発、②教科学習等におけるパフォーマンス課題を活かしたデジタル・コンテンツ開発、③実践者の探究指導力育成研修の開発、という3点に取り組んでいる。

また、2024年度からは、SMBC京大スタジオ共同事業として、「貧困・格差・虐待の連鎖を乗り越える教育アプローチの研究開発と普及」に取り組んでいる。具体的には、大阪市立生野南小学校で開発された『『生きる』教育』に注目している。『『生きる』教育』とは、

子どもたちが貧困や格差、虐待といった人生の困難を乗り越えるために必要な知識や価値観を身につけるための教育プログラムである。プログラムには、虐待予防教育（安心・安全・清潔、育児体験、障害理解等に関する教育など）や治療的教育（ライフストーリーワーク、子どもの権利教育、キャリア教育など）が含まれている。本プロジェクトでは、研修会や教材・教具の提供サイトの構築などを通して『『生きる』教育』の普及に取り組むとともに、各種の基礎研究（国際調査や国内調査）や、新たなプログラム開発にも取り組んでいる。

その他、日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会、日本教育学会近畿地区、関西教育学会との共催によるシンポジウムなども開催し、学内外の連携強化に努めている。

教育学研究の重要性は、現在、ますます高まっている。今後も、教育実践コラボレーション・センターでの活動を通して、様々なフィールドにおける教育改善に貢献していきたい。

〈講演会・シンポジウム・ワークショップなど〉（2024年4月1日～2025年3月31日）

第55回「知的コラボ」の会

「社会・文化心理学はグローバルな課題とどう向き合うか：多文化主義と気候変動問題を中心に」

- 日時：2024年5月30日（木） 15:00-17:00
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 話題提供：パクジュナ講師（京都大学）

第56回「知的コラボ」の会

「『自己教育』論再考：曖昧で万能な生涯教育/社会教育学の価値を問い直す」

- 日時：2024年6月27日（木） 15:30-17:30
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 話題提供：奥村旅人講師（京都大学）

第57回「知的コラボ」の会

「現代の若者世代のアグレッション」

- 日時：2024年7月25日（木） 14:00-16:00
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 話題提供：畑中千紘准教授（京都大学）

第1回公開シンポジウム「不登校に関する政策動向」

- 主催：日本学術会議日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会
- 共催：教育実践コラボレーション・センター
- 日程：2024年7月28日（日）

- 報告者：若林徹氏（文部科学省文部科学省 初等中等教育局 児童生徒課 課長補佐、
（併）大臣官房総務課、（併）内閣事務官（こども家庭庁支援局））
伊藤美奈子教授（日本学術会議連携会員（特任）、奈良女子大学研究院生活環境科学系）ほか

E.FORUM SIP研究会

「教育におけるELSIを考えよう——初等中等教育における教育データ利活用を例に」

- 日程：2024年7月29日（月）
- 場所：オンライン開催
- 講師：岸本充生教授（大阪大学 データビリティフロンティア機構/社会技術共創研究センター長）ほか

E.FORUM2024全国スクールリーダー育成研修

- 日程：2024年8月20日（火）・21日（水）
- 場所：京都大学総合研究3号館・4号館

E.FORUM SIPワークショップ

「真正で探究的な学びを実現するパフォーマンス課題とは」

- 日程：2024年8月21日（水）
- 場所：京都大学総合研究3号館・4号館
- 講師：森本和寿特任講師（大阪教育大学）
大貫守准教授（愛知県立大学）
若松大輔助教（弘前大学）ほか

第1回「『生きる』教育」研修会

- 日程：2024年8月24日（土）・25日（日）
- 場所：京都大学人間・環境学研究科棟
- 講師：辻由起子先生（社会福祉士、こども家庭庁参与）
木村幹彦先生（大阪市立南市岡小学校・校長）
別所美佐子先生（大阪市立田島南小学校・主務教諭）
西澤哲先生（山梨県立大学大学院人間福祉学研究科・特任教授）
西村建一郎先生（大阪市立田島中学校・主務教諭）
小野太恵子先生（大阪市立田島南小学校・指導教諭）
田中梓先生（大阪市立田島中学校・指導養護教諭）
今垣 清彦 先生（大阪市立田島南小学校・田島中学校 校長）

第2回「『生きる』教育」研修会

- 日程：2024年9月15日（日）・16日（月・祝）
- 場所：京都大学総合研究3号館
- 講師：西澤哲先生（山梨県立大学大学院人間福祉学研究科・特任教授）

福岡県立京都高校「京都研修」

- 日程：2024年10月10日（木）・11日（金）
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 交流会：油田優衣、田野茜、岡澤節、山迫花寧、岡弘明（京都大学学生）
- 模擬講義：西岡加名恵教授（京都大学）

教育実践コラボレーション・センター学術交流活動

北京師範大学との交流「Education Reform and Innovation in the New Era」

- 日程：2024年10月25日（金）～27日（日）
- 場所：京都大学総合研究2号館他

関西教育学会第76回大会公開シンポジウム

「デジタル化時代を生きる子どもたちの育ちへの支援」

- 日程：2024年11月30日（土）
- 場所：京都大学吉田キャンパス吉田南総合館 共南11講義室

「デジタル世界に埋没する子どもたちの離脱支援」

- 富田幸子講師（甲南女子大学文学部）
- 「不登校児童生徒への支援等におけるICT活用の試行」
- 西垣祐作氏（兵庫型学習システム推進員）
- 「デジタル・コスモポリタン教育による人間形成を考える」
- 広瀬悠三准教授（京都大学）
- 司会：開沼太郎准教授、西岡加名恵教授（京都大学）
- コーディネーター：広瀬悠三准教授、西岡加名恵教授（京都大学）

第3回「『生きる』教育」研修会

「虐待が子どもの自己(self)に与える影響の理解と支援」

- 日程：2024年12月11日（水）
- 場所：オンライン開催
- 講師：西澤哲先生（山梨県立大学大学院人間福祉学研究科・特任教授）

第2回公開シンポジウム「『学びの多様化学校』の学校づくりに学ぶ」

- 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会
- 共催：日本教育学会近畿地区
京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
- 日程：2024年12月15日（日）
- 場所：オンライン

第58回「知的コラボ」の会

「Ethnic inequality in educational outcomes of children in social care in Wales using linked administrative data.」

- 日程：2024年12月18日（水）
- 場所：京都大学総合研究2号館
- 講師：SinYi Cheung教授（Cardiff University）
- コーディネーター：藤間公太准教授（京都大学）

「日本の教育における政策と実践」

- 主催：British Association of Japan Studies
- 共催：教育実践コラボレーション・センター
- 日程：2025年1月11日（土）・12日（日）
- 場所：京都大学総合研究2号館

第59回「知的コラボ」の会

「〈有用性〉の規範と「居場所」―学校外の育成環境を問う―」

- 日時：2025年1月20日（月） 13:00-14:30
- 場所：教育学部本館
- 講師：萩原建次郎教授（駒澤大学総合教育研究部）
- コーディネーター：奥村旅人講師（京都大学）

公開講座「未来を築く多文化教育」

- 主催：グローバル教育展開オフィス
- 後援：京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
- 日時：2025年2月14日（金）13:00-17:00
- 場所：京都大学吉田キャンパス 教育学部本館（ハイブリッド開催）

SMBC京大スタジオ「『生きる』教育」セミナー

- 日程：2025年3月1日（土）
- 場所：ビジョンセンター品川

「『生きる』教育」およびプロジェクト紹介

- 西岡加名恵教授（京都大学）

SMBC京大スタジオ「『生きる』教育」プロジェクト初年度成果共有会

- 日程：2025年3月11日（火）
- 場所：教育学部本館

第60回「知的コラボ」の会

「ベイズ推論モデルの基礎と計算論的精神医学での活用」

- 日時：2025年3月13日（木） 15:00-17:00
- 場所：教育学部本館
- 講師：国里愛彦教授（専修大学人間科学部）
- コーディネーター：高橋雄介准教授（京都大学）

第3回公開シンポジウム「不登校現象に関する研究の到達点」

- 主催：日本学術会議心理学・教育学委員会 不登校現象と学校づくり分科会
- 共催：日本教育学会近畿地区
京都大学大学院教育学研究科教育実践コラボレーション・センターE.FORUM
- 日時：2025年3月16日（日）13:00-16:00
- 会場：Zoomによるオンライン開催

第4回「『生きる』教育」研修会

- 日程：2025年3月22日（土）
- 場所：京都大学総合研究8号館
- 講師：才村眞理氏（元 帝塚山大学心理福祉学部教授）
別所美佐子先生（大阪市立田島南小学校）
田中粹先生（大阪市立田島中学校）

E.FORUM全国スクールリーダー育成研修 第20回実践交流会

- 日程：2025年3月23日（日）
- 場所：京都大学総合研究2号館

E.FORUM SIP公開シンポジウム

「デジタル社会における多様性が尊重された学び——ICT×DE&Iの可能性」

- 日程：2025年3月23日（日）
- 場所：京都大学総合研究8号館
- 報告者：岡村亮佑氏（京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程）
田野茜氏（京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程）
久富望助教（京都大学）
糸川薫樹氏（京都大学大学院教育学研究科 博士後期課程）
- 指定討論者：木村裕教授（花園大学文学部）

第61回「知的コラボ」の会

「発達障害と教育に関する連続研究会(1)」

- 日時：2025年3月25日（火） 16:00-17:30
- 場所：京都大学総合研究2号館、オンライン（ハイブリッド開催）
- 話題提供：明地洋典准教授（京都大学）

グローバル教育展開オフィス

グローバル教育展開オフィス ～国際教育研究の充実に向けて～

グローバル教育展開オフィス（以下、オフィス）は、本研究科の学際的研究教育拠点として 2017（平成 29）年度の設置以来、グローバル時代教育課題に取り組み、その成果を国内外に発信することを目的に、積極的な教育研究活動を行ってきた。オフィスは、「創生開発ブランチ」と「国際教育支援ブランチ」の 2 部門からなる。「創生開発ブランチ」はオフィスの統括と研究プロジェクトの推進を主に担当し、「国際教育支援ブランチ」は海外研究機関との学術交流の展開や大学院を中心とするグローバル教育の企画と実施を主に担当している。オフィスは 2020（令和 2）年度から基幹経費化され、本研究科における国際教育研究や国際学術交流の中核を担っている。

今年度（2024 年度）は、昨年度の活動を基盤としつつ、次のような形で、研究成果の発信に向けた取り組みを進め、大学院学生の国際教育研究活動や研究科内の国際交流に関する取り組みを支援した。

【基幹事業（研究）】

＜「日本型教育」プロジェクト＞

2018（平成 30）年度から「新しい理論的・実践的基盤に立った教育文化・知の継承支援モデルの構築と展開」をテーマに、「日本型教育」プロジェクトを進めてきた。このプロジェクトの目的は、日本の教育を支えてきた文化のしるみをグローバルな視野から問い直すことによって、教育の新しいグローバル・スタンダードとそれに基づく教育モデルの可能性を理論・実践の両面から探究し、その成果を「方法としての京都」として国内外に発信していくことである。

今年度は、プロジェクトの成果の書籍化に向けた作業を進め、『＜日本型教育＞再考ー学びの文化の国際展開は可能か』（京都大学学術出版会）を刊行するとともに、その英語版の刊行作業にとりかかった。また、本研究科における代表的な論文の翻訳及びとりまとめ作業を進めている。

【基幹事業（国際教育）】

＜グローバル教育科目＞

「グローバル教育科目」は、修士課程及び博士後期課程の大学院学生を対象に、グローバルな視野で研究や実践を行うためのスキルを身につけることを目的に開設されている。

「グローバル教育科目」群には、「国際合同授業」、「国際教育研究フロンティア」、「国際インターンシップ」、「国際フィールドワーク」が含まれる。オフィスでは、これらの科目の運営・実施の支援を通して、大学院学生に学びの機会、また将来のキャリアを築く機会を提供している。

今年度は、前年度の支援活動を踏まえ、7 名の学生が「国際フィールドワーク」及び「国際インターンシップ」に参加した。「国際フィールドワーク」では、2 名の学生が韓国

のソウル大学校や学習塾、インド・タミル・ナードゥ州の教育機関を訪問し、インタビューや文献調査を通じて博士課程研究に必要なデータを収集した。また、現地の教育システムに関する知見も深めることができた。「国際インターンシップ」には5名の学生が参加し、クイーンズランド大学（オーストラリア）の言語教育機関での研修、チュービンゲン大学（ドイツ）の LEAD リトリートへの参加、シンガポール国立大学での研究体験、ポツダム大学（ドイツ）及びリーズ大学（イギリス）の研究者訪問など、多様な国際的研究活動を行った。

オフィスは、これらの活動を通じ、学生が将来の同僚や指導者となり得る人々と出会い、交流することで国際的な研究ネットワークを構築し、キャリアの可能性を広げることができることを期待している。オフィスでは主として、学生の指導及び経費の支援を行った。

加えて、オフィスは、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンとの「国際合同授業」実施の支援を行った。

【支援事業（研究）】

オフィスでは、大学院学生の国内外における研究成果の発信を支援している。大学院学生の研究の国際化を促進するため、国際学会での発表に対する経費支援や、外国語論文等の校閲や論文掲載費用の支援を行った。

具体的には、ヨーロッパ、アメリカ、香港、東京を含む多様な地域における対面開催の国際学会で発表を行う大学院学生に、計14件の国際学会発表支援を行った。加えて、支援対象者による参加報告書をオフィスのホームページで発信し、若手研究者の国際的な活動に向けたモチベーションの向上及びノウハウの獲得を促している。

国際学会での発表への支援は、インパクトの高い国際誌への投稿と掲載につなげることを目標としており、オフィスでは今年度も、大学院学生の国際誌への論文投稿のための校閲費用の支援を行った。加えて、同支援は日本人学生とともに、外国人留学生も対象としており、外国人留学生が日本語で執筆された論文を日本国内の学術誌への投稿も支援対象であることを明示し、周知に努めた。同時に、新たな取り組みとして、大学院学生からのニーズを踏まえて、論文掲載費用の支援も開始した。今年度は計3件の外国語論文校閲費用の支援を実施した。

さらに、外国語での論文作成のサポートの一環として、昨年度に続き、研究科内の大学院学生を対象とする「英語論文執筆リトリート（Writing Retreat）」の開催を支援した。

「英語論文執筆リトリート（Writing Retreat）」

- 日時：2024年11月22日（金）～24日（日）
- 場所：滋賀県高島市白浜荘
- 内容：教育学や心理学の国際学術誌に投稿する論文を執筆中の計6名の大学院学生・学部学生が参加し、論文執筆の手順や効果的に取り組む方法に関するガイダンスの聴講のほか、集中した執筆のための効果的な目標設定及び時間の使い方の実践に取り組んだ。

【支援事業（国際交流）】

オフィスでは、本研究科における学術交流協定校との国際交流事業を支援している。今年度は、以下の事業の運営・実施を支援した。

北京師範大学教育学部との大学院生学術交流会

- 日時：2024年10月25日（金）～27日（日）
- 場所：京都大学・京都市内
- 内容：「Education Reform and Innovation in the New Era」をテーマに、双方の大学の計13名の大学院学生が研究発表と質疑応答、懇談会を通して、学術交流を行った。

ソウル大学校師範大学教育学科との交流及び韓国の教育機関での視察

- 日時：2025年1月20日（月）～24日（金）
- 場所：ソウル大学・ソウル市内
- 内容：教育学研究科の学生5名、教職員3名が韓国を訪問し、ソウル大学での研究交流会にて学生による研究発表を行い、また大峙洞学習塾街、韓国教育開発院、多文化支援センターなどを訪れて韓国の教育や文化への理解を深めた。

ドルトムント工科大学教育・心理学部との研究ワークショップ

- 日時：2025年3月14日（金）
- 場所：ドルトムント工科大学教育・心理学部＋オンライン
- 内容：第6回ドルトムント工科大学教育・心理学部—京都大学大学院教育学研究科・教育学部・研究ワークショップが開催された。テーマは Sustainability in the Light of (Human) Nature Paths towards World Citizenship Education で、本研究科の准教授・講師・大学院生合わせて4名がこのテーマのもとそれぞれ発表し、その後小グループに分かれてのディスカッション及び全体討論を行い、研究交流を深めた。

【その他】

研究科内外の国際化を促進するために、昨年度に続き、教育学部・教育学研究科内向けの留学生交流会の開催と、香港大学との研究プロジェクトの後援を行った。また、研究科教員による国際交流活動を支援する仕組みを導入した。加えて、大学院教育支援機構との共催により、博士後期課程の大学院学生を主たる対象とするキャリア開発・育成支援講演会を計4回開催した。

留学生交流会「キャリアを考える」

- 日時：2024年8月1日（木） 15:00～16:30
- 場所：教育学部 第1会議室
- 内容：教育学部・教育学研究科に在学している留学生のキャリアに対する期待と、現在抱えている不安について、10名ほどの学部学生、大学院学生及び研究科内の教職員、京都大学キャリアサポートセンターとともに意見交換し、情報源等の提供を主と

するサポートを行った。

香港大学との研究プロジェクト「アジア型大学探求プロジェクト」

内容：2023年度に実施した本研究科と香港大学の研究交流の成果として、京都大学若手研究者及び大学院生が執筆者の中心となる書籍出版を計画している。今年度は香港大学にてライティング・リトリートを実施し、執筆内容の検討を行った。

ライティング・リトリート

- 日時：2025年3月10日（月）～13日（木）
- 場所：香港大学

キャリア開発・育成支援講演会

第一回 海外の大学・研究機関で働く

- 日時：2024年12月5日（木） 13:00～14:30
- 講師：増田 貴彦氏（カナダ・アルバータ大学心理学部教授）
- 場所：京都大学総合研究2号館 第2演習室

第二回 企業で働く

- 日時：2025年1月7日（火） 13:00～14:30
- 講師：枘田 恵氏（三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社政策研究事業本部 研究員）
- 場所：京都大学総合研究2号館 第2演習室

第三回 高等学校で働く

- 日時：2025年1月31日（金） 13:30～15:00
- 講師：飯澤 功氏（京都市立堀川高等学校 副校長）
- 場所：京都大学総合研究2号館 第二講義室

第四回 大学内の研究組織で働く

- 日時：2025年2月6日（木） 13:30～15:00
- 講師：松本 万里子氏・横江 智哉氏（京都大学総合研究推進本部 リサーチ・アドミニストレーター）
- 場所：京都大学総合研究2号館 第2演習室

令和6年度 学位（博士）授与者及び題目一覧

課程博士 ※令和7年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
倉 石 宏 樹	犯罪者プロファイリングの精度評価：心理実験・調査と統計モデルに基づく比較
岡 田 安 功	公共交通機関での攻撃行動の実態把握と防止 —欲求不満と脱抑制への対応—
市 川 和 也	戦後西ドイツのカリキュラム研究史 —カリキュラム運動期に焦点を合わせて—
豊 原 響 子	物語の生成とその基盤に関する心理臨床学的研究
溝 口 侑	青年期のキャリア形成過程におけるロールモデルの影響
袁 通 衡	中国の大学生の授業外日本語学習における自律的な OER 利用の支援に関する実証的研究
佐 伯 和 香	ヒューマノイドロボットの受容に関する実証的研究
枝 川 京 子	LGBT の子をもつ親の支援に関する臨床心理学的研究
小 柳 亜 季	イギリスにおける言語意識運動の理論と実践 —言語的多様性を包摂するカリキュラム編成の模索—
祁 白 麗	日本における環境教育の理論と実践 —地域と教育の関係に焦点を合わせて—
森 一 也	現代心理臨床における「うつろい」に関する研究 —北山理論からの展開—
南 俊 行	ヒトの共同養育に関する生物学的基盤 —霊長類研究からのアプローチ—
吉 岡 佑 衣	夢の中の感情の臨床的有用性に関する実証研究
等々力 花 歩	ヒトの利他行動に関する発達心理学的研究 —共同養育社会の実現に向けた展望—
藤 原 秀 朗	幼児期における実行機能と腸内細菌叢の発達の関連
大 野 真理子	大学入学者選抜における多面的・総合的評価の解釈と実践 —組織学習の観点からの事例研究—
松 尾 美 香	大学における冒険教育の実践とその教育効果
長 谷 雄 太	「悪」という事象に関する心理臨床学的研究
池 田 寛 香	懐かしさの生起要因と個人差 —自伝的記憶に基づく検討—
渡 邊 智 也	演劇における演技創造が社会的能力に及ぼす促進効果
加 藤 結 芽	現代青年におけるアタッチメント対象との葛藤

論文博士 ※令和7年3月授与まで

氏 名	論 文 題 目
浅 田 剛 正	イメージ表現技法を介した Clinical vision の創生と縁起
山 口 刀 也	「基地の町」の教師たち —朝鮮戦争期の岩国における教育と政治の関係—
黒 崎 和 泉	攻撃性と身体自覚症状に関する臨床心理学的研究
山 本 有 恵	学生相談が育む大学生の主体性 —「教育」を問い直す視座から—
竹 森 元 彦	コミュニティにおけるウチとソトに着目した心理臨床モデルの構築
平 山 る み	批判的思考の態度および能力と育成

修士論文題目一覧

氏 名	論 文 題 目
後 川 慶 一	茶道の稽古研究 —柳宗悦の茶道論を中心に—
木 下 真一郎	カント教育思想における子どもの性格形成論 —発達段階的な性格教育的配慮と友情の性格形成論的意義に着目して—
服 部 平 知	日本教職員組合における「共通語（標準語）」指導推進論の再検討 —1950年代～60年代における秋田県教師たちの動向に着目して—
盛 楓 菜	初期ハイデガーのアリストテレス解釈における「人間的な現存在」概念に関する教育学的考察：学知（ <i>ἐπιστήμη</i> ）の役割に着目して
和 田 幸 大	「遊び」の空間としての学校の可能性 —立川高等学校における生徒主体の学校行事の考察—
市 橋 千 弥	A. S. ニールによる自由学校論の検討
井 上 ふくみ	乳幼児－母親の日常の交流スタイルと母親刺激に対する報酬活動との関連
王 偉 宇	オックスフォード功利主義尺度日本語版の作成および信頼性、妥当性の検討
管 谷 尚 樹	乳児－養育者間の相互作用における情動調整 —発達神経科学からのアプローチ—
QI JUNSHUAI	The Impact of Internet and Face-to-Face Communication on Physical and Mental Health: Toward Developing a Personalized Ecological Momentary Assessment Approach
松 村 有希子	LGBにおけるセルフスティグマの研究 —先行要因、緩和要因、および対処戦略に着目して—
吉 田 真 生	D. リトルによる「学習者オートノミー」の理論と実践
今 村 光 臣	不安の中で落ち着くこと：ハイデガーのバイディア解釈を中心に
野 村 悟	教室空間における「発達と生成」の教育 —矢野智司の贈与論を手掛かりに—
福 田 宗一郎	「言葉から出て言葉に出る」とはどういうことか —上田閑照と自己をめぐる脱中心主義—
有 海 春 輝	BIS/BASによる2種類の自己愛傾向の弁別的な関連 —SNSに作品を投稿する個人を対象として—
梶 谷 哲 史	高校生の境遇活用スキルと批判的思考態度の変化と個人差 —探究学習の持続可能な開発教育の側面に焦点を当てた検討—
佐 藤 可南子	意味的・機能的関連によるグループ化がワーキングメモリの物体表象に与える影響
平 山 れ い	日本と北米の比喩的談話によるコミュニケーションの差 —社会的距離がポライトネス・ストラテジーに与える影響—
藍 予 智	Social Presence or Added Information? The Value of Incorporating the Teacher in Multimedia Instructional Videos for Language Learning
村 上 遥	Understanding EFL motivation by understanding identity: Ideal L2 Self × Current L2 Self

足立 龍 誠	心的境界と夢体験過程との関連について —夢を記録することを通して—
安 齋 久 翔	対人関係から捉える現代における「推し」の心理
齋明寺 奈 々	大学生におけるアイデンティティ発達と自己主体感との関連 —質問紙調査とバウムテストを用いた面接調査より—
坂 口 穂乃佳	過剰適応傾向と自己および他者イメージの関連について
敷 田 鑑	ロールシャッハ法において対象関係が図版との関係に及ぼす影響 —メディア論的観点からの検討—
城 間 日葉子	大学生における自我体験とアイデンティティの感覚との関連
谷 優佳梨	現代青年の時間的展望と対人関係についての多角的検討
玉 元 麻 貴	過敏型自己愛傾向者の親子関係のあり方と親への要求
根 本 梢	青年期における“あきらめ”の様相 —人格の二面性の観点から—
山 口 幹 子	学校生活場面における児童の他者像と他者への反応に見られる攻撃性の関連についての研究
蔣 天 晨	中国におけるいじめに関する構築主義的研究
藤 波 明 志	母親の子どもに対する進学期待 —地方在住のUターン者へのインタビュー調査に基づく検討—
山 見 宝 生	ソーシャル VR における相互行為
岡 澤 節	主権者としての当事者意識の醸成に向けたカリキュラム・マネジメントのあり方に関する研究
OSORINA DARIA	戦時下における言論統制の目的・方法・機能 —1931-45の日本とウクライナ侵攻後ロシアの比較から—
山 迫 花 寧	外国人児童生徒の支援の充実に向けた遠隔教育の活用のあり方に関する検討
YEUNG SUI SUM WALDEN	ニューノーマルにおける「バーチャル留学」のあり方
KIM NEUNG MI	創造的思考プロセスを促進する生成 AI ツールの開発と効果に関する実証的研究
奥 村 百 香	学生が語る大学との関わり —解釈学的アプローチによる学生参画再考—

卒業論文題目一覧

氏 名	論 文 題 目
會 澤 風	浜本純逸による総合単元学習論の検討 ー文学教育論との関連に着目してー
五十嵐 銀 太	柴田義松による系統学習論の検討
井 川 雄一朗	生き方としての哲学とスタンリー・カベルの“acknowledge”概念 ー現代邦画の分析を通してー
岡 島 毅	聴覚障害児に対する算数・数学教育の現状と課題
岡 野 桂 奈	鈴木和夫の生活指導実践の検討
小 澤 皓 介	「非凡な感受性」の気づきをいざなう芸術教育とは ーデューイの美的経験論および武藤順九の寺子屋実践をもとにー
小森山 純 翔	開かれた愛国教育についての研究 ーフィヒテ『ドイツ国民に告ぐ』を手がかりにしてー
酒 井 希 巳	教育現場におけるセルフアドボカシースキル育成プログラム
末 富 佑 弥	峰地光重による「生活読方」の理論と実践
須 田 来 美	東井義雄の「村を育てる学力」に関する一考察
豊 島 礼 奈	明治後期における都市近郊農村地域の病と医療 ー現奈良県生駒市迎春堂の診察記録を基にー
福 西 潤 哉	三浦孝によるヒューマニスティック英語教育論の検討
三 井 汐 里	自閉スペクトラム症児を養育中の親による子どもの捉え方とその変化
東 涼 平	宇都宮裕章による教育言語学の構想
谷 口 遼 馬	東浦町立緒川小学校における個別化・個性化教育
山 崎 貴 仁	折出健二の集団づくり論に関する一考察
花 房 柚衣香	食の好みと食に関する経験や信念の関連についての検討
前 原 祐 作	食と変容 ー異質なものを食べるという経験を手がかりにー
稲 尾 祐 有	第二反抗期において家出を考えた経験と家族関係及び心理的自立との関連の検討
今 関 航 介	時間表象ー出来事間の調和が時間駆動型展望記憶に及ぼす影響
魏 旻 咨	Understanding and Enhancing a Peer-support System for International Students
上 田 蒔 菜	自傷に対して大学生が持っている心理的イメージと、援助要請スタイルおよびストレス反応との関連
片 岡 琢 雄	感情の言語化とレジリエンスの関係
KHANT SI THU	An Examination of the Possible Relationships Between Open-Mindedness, Myside Bias, and Empathy
瀧 口 翔 太	畏敬の念が死の顕現化に与える効果
田 中 明 子	大学生の女性の月経体験と自我同一性の関係
西 岡 彰 悟	失恋後、青年が次の恋愛に向かう心理的プロセス
松 原 健	アイデンティティの多元性と強迫傾向の関係

守 田 美沙樹	性格特性語の評価と自己一致度、および自尊心の関係
山 下 裕 貴	20 答法を用いた大学生の将来観の検討
吉 田 祥 世	青年期における援助要請スタイルの違い —信頼感と自律性に着目して—
高 田 実 佳	発言抑制と適応感の関連性の検討 —質問紙、バウムテストから—
松 原 加 奈	大学生の進路選択における「個」—「関係」葛藤の様相
柳 悠 華	大学生のアイデンティティ・プロセスと自己主体感 —質問紙と風景構成法による検討—
安 部 陽 登	被雇用者の学歴取得に向けた障壁
井 出 直 希	学びの多様化学校にみる「多様性」
上 嶋 美 紀	協力雇用主の非行少年に対する対応とその背景
宇 戸 琴 実	英語教育学者・夏目漱石が考える「カルチュア」概念
榮 川 和 子	スペインの公教育における多言語教育の展開 —公式語学学校 EOI に着目して—
大 脇 茉 那	高校校歴女子学生のライフプランニング —初職の選択に着目して—
岡 弘 明	教育行政における伴走支援に関する一考察 —学校運営協議会制度に着目して—
川 島 光 琴	湾岸諸国と 1970 年大阪万博 —石油外交の舞台としての万国博覧会
川 下 慶 和	産業界による学校教育への要求に関する社会学的研究
栗 田 朋 香	母親から支援者への変化のプロセス —発達障害児の親の会運営者の語りから
坂 本 咲 陽	学校教育における金融経済教育の役割 —フィンランドの金融経済教育・Me&My City の実践から—
上 間 沙 耶	教育政策における財界の影響 —ICT 教育政策に着目して—
田 口 将太郎	全寮制中等教育機関における「能力」習得と自己形成 —「ハイパー・メリトクラシー」概念を手がかりに—
竹 内 惇 人	アメリカにおける中等教育段階でのアントレプレナーシップ教育
田 中 里 奈	1940 年代前半における文部省図書推薦制度の理念とその限界 —滋賀県立図書館の蔵書から—
永 井 光 洋	海洋基本法における教育の位置づけに関する考察
中 濃 優 大	子どもとの非パターンリスティックな関係を構築する実践 —子どもとかかわる大学生ボランティアの語りを通して—
野 崎 修 平	日本における部活動の特質 —人間形成の観点に着目して—
橋 爪 亮 至	インドにおける大学入試制度

令和6年度卒業論文

東 沙希子	娘は家族における父親の姿をどのように捉えているのか —女子大学生へのインタビュー調査にもとづく考察
藤 村 爽 太	社会人陸上競技選手のデュアルキャリアにおける困難と展望
本 田 和 己	私立通信制高等学校の設置認可における審査に関する考察
宮 元 碧 万	「環境問題」はどのように生まれたのか —1972 年国連人間環境会議をめぐって—
山之口 祐 真	ベトナム統一前後における英語教育政策の変容 —体制の転換と社会的需要に着目して—
迫 田 学	韓国と日本における私教育の展開
村 井 虎太郎	雑誌において「格差」はどのように語られてきたのか —記事タイトルの計量テキスト分析より—
森 下 昌 則	教職における AI の可能性 —ワーク・エンゲージメントに着目して—
古 村 美 里	日本とアメリカにおけるキャリア形成教育に関する研究 —職業と家族の関係を中心に—
藤 澤 直 弥	アメリカにおけるキャリア教育の担い手に関する考察 —専門性を持った人材の活用に着目して—
堀 江 由 華	大学生は母子家庭で育った経験をどのように語るか
山 中 龍之介	「NHK 全国学校音楽コンクール」における競争過熱をめぐる言説とその変遷

執筆者紹介（執筆順）

岡村 亮佑	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 3 回生
梶原 隆真	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 2 回生
田野 茜	日本学術振興会特別研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
肖 瑤	教育支援機構奨励研究員 教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 2 回生
加藤 里奈	臨床教育学コース 博士後期課程 3 回生
サチニ デイランカ ウダワツタ	教育方法学・発達科学コース 博士後期課程 1 回生
呉 尚峻	高等教育学コース 博士後期課程 1 回生
梅川 紗綾	高等教育学コース 博士後期課程 2 回生
岡田 航平	高等教育学コース 博士後期課程 2 回生
Paterson Rebecca Lee	教育認知心理学コース 博士後期課程 3 回生
吉岡 佑衣	教育支援機構奨励研究員 臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
保崎恵理子	臨床心理学コース 研修員
杉山佳菜絵	臨床心理学コース 博士後期課程 1 回生
近藤 啓太	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
上田 裕也	教育支援機構奨励研究員 臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
久保蘭悦子	臨床実践指導者養成コース 博士後期課程 3 回生
古澤 文子	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
村上 千理	臨床心理学コース 博士後期課程 3 回生
立岩陽一郎	教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
戸松 幸一	教育文化学コース 博士後期課程 3 回生
西山喜満主	教育支援機構奨励研究員 比較教育政策学コース 博士後期課程 1 回生
南部 広孝	教育社会学講座 教授
村田 裕佳	比較教育政策学コース 修士課程 1 回生
廖 于晴	国立台東大学教育学系 助理教授
上村 太郎	教育支援機構奨励研究員 教育文化学コース 博士後期課程 2 回生
開沼 太郎	教育社会学講座 准教授
山迫 花寧	比較教育政策学コース 修士課程 2 回生
岡澤 節	比較教育政策学コース 修士課程 2 回生
小島 美月	教育支援機構奨励研究員 比較教育政策学コース 博士後期課程 1 回生
張 潔麗	グローバル教育展開オフィス 助教

※投稿論文数は 28 件、うち 26 件の論文を採択した。

京都大学大学院教育学研究科紀要投稿規程

2015.04.14 改訂

2016.05.10 改訂

2018.04.10 改訂

2019.04.17 改訂

(1) 投稿資格

単著論文の場合、執筆者は、本研究科教員・研究員・研修員および博士後期課程 1 年次以上の大学院学生とする。ただし、研修員については少なくとも受け入れ教員 1 名の推薦、大学院学生については少なくとも指導教員 1 名の推薦のある者に限る。

上記の資格をもつ者が年度途中で身分を変更した場合にも、少なくとも前期に在籍すれば、投稿資格をもつ。ただし、身分変更を速やかに届けて、変更後にも紀要編集委員会と連絡が取れる状態にあることを条件とする。以上の条件を満たさない場合には、投稿資格を失う。

共著論文の場合、本研究科教員が第一著者となり、学内外の研究者（修士課程 1 年次以上の大学院学生を含む）を共著者とするもの、または本研究科研究員が第一著者となり、本研究科教員を共著者とするものに限る。

(2) 内容

原稿の内容は未発表の学術論文とする。

(3) 使用言語

原則として自由。ただし、外国人留学生は日本語で投稿すること。

(4) 原稿枚数

A4 用紙で 1 枚当たり「42 字×38 行」とし、第一著者が本研究科教員の論文は 25 枚（本文 24 枚＋アブストラクト 1 枚）、それ以外の論文は 14 枚（本文 13 枚＋アブストラクト 1 枚）を上限とする。外国語論文の枚数もこれに準じる。

(5) 投稿要領

投稿に際しては、執筆注意事項指定の書式に従い、原稿を締切日までに指定された提出先に提出のこと。

(6) 投稿・問い合わせ先

紀要編集委員会

(7) 原稿の掲載の可否

原稿の掲載の可否については、学外の専門家を含む複数の審査委員による査読を基に紀要編集委員会が決定する。

(8) 著作権

本紀要に掲載された論文の著作権は本研究科に属する。

編集委員 駒 込 武 福 井 佑 介
野 口 寿 一 久 富 望
西 山 慧

令和7年3月18日 印刷

令和7年3月25日 発行

発行人 京都大学大学院教育学研究科
代表者 齊 藤 智

印刷所 株式会社 北斗プリント社
〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
TEL (075) 791-6125

発行所 京都大学大学院教育学研究科
京都市左京区吉田本町

Kyoto University Research Studies in Education

No. 71

現代の対人恐怖に関する一考察

－「おびえ」の心理に着目して－

性的マイノリティ（LGB+）に関する性的アイデンティティ発達研究の概観

－段階モデルからマイルストーン研究への潮流変化に着目して－

小学校支援学級担当教員とスクールカウンセラーによる

学校臨床コンサルテーションの実践について

心理臨床家の内的負担感へのアプローチ

－対人援助職者の観点からその専門性へ－

青年期における身近な他者からのサポートに関する研究の再検討

米『ブルーブック』から日本の放送が得たもの

－戦後日本の放送は何を得て何を捨てたのか－

明治「非・青年」としての浪人論

－雑誌『日本人』、『日本及日本人』を中心に－

韓国における大学入学者選抜をめぐる論争に関する考察

－教育の「正常化」言説を手がかりとして－

台湾の大学入学者選抜における特別措置に関する考察

女性同士の親密な関係とメディアを巡る社会学研究の系譜と展望

教育政策の実施過程における「回避・復元傾向」を生み出す教員の意識

－教育の情報化とカリキュラム・マネジメントに関する文献調査をもとに－

インド・カルナータカ州の学校教育における言語に関する戦略

－英語と州公用語の扱い方に着目して－

世界諸国の高等職業教育の展開に関する考察

－学士課程段階の高等職業教育の提供状況の整理を試みて－